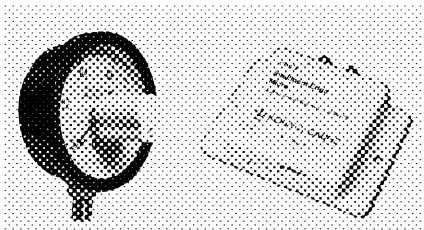
タンクガス圧遠隔監視

木幡計器、搬送時の負担減

木幡計器製作所（大阪市大正区、木幡巌社長）は、ＩｏＴ（モノのインターネット）製品やサービスを手がけるｏｂｎｉｚ（東京都豊島区）と業務提携し、石油、ガス、化学品を運搬するタンクローリーなどの圧力計や温度計を後付けで遠隔監視するシステムの提案を始めた。アナログ計器のデータを読み取るＩｏＴセンサーユニットとｏｂｎｉｚの遠隔監視用クラウドサービスなどを組み合わせる。

可燃性流体などの搬送状態の監視を自動化し、事業者やローリードライバーの負担軽減につなげる。



木幡計器の防爆仕様のＩｏＴセンサーユニット「Ｓａｌｔａ（サルタ）－Ｅｘ＝写真左」をアナログ計器に後付けして計器の針の位置を読み取り、無線でｏｂｎｉｚの全地球測位システム（ＧＰＳ）内蔵通信機器「ＳＩＧＷ－02＝同右」に送信する。ＳＩＧＷ－02がＬＴＥ通信を使ってクラウドシステム「ｏｂｎｉｚ　Ｎｏｗ」にデータを送り、タンクローリーなどの移動体が搬送している流体のガス圧や温度を可視化して遠隔地から常時監視する。

両社製品のセットの初期導入費用は27万－28万円程度（消費税抜き）で、クラウドサービスの月額利用料は数千円。初年度に５００台の販売を目指す。

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社